

議 事 録

日 時	令和6年2月17日（土） 午後2時00分から午後4時00分まで
場 所	日野市役所 505 会議室
会議件名	第4回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会
主な議題	教育基本構想について
参加者	委員長：梅澤秋久、副委員長：川上潤、委員：小宮広子、土屋早苗、船山徹、和田栄治、森田正男、黒澤一慶、諸星修、前洋子、佐野礼子、中田秀幸、村田幹生、長崎将幸、竹山弘志 赤久保洋司（欠席）
配布資料	あり
結 果	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 了承(意見なし) <input type="radio"/> 了承(意見あり) <input type="radio"/> 要修正・再説明 <input type="radio"/> 不承諾 <input type="radio"/> 情報共有のみ <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> } </div> <p style="margin-left: 40px;">いずれかに該当する場合は「主な内容」欄に意見要旨を記載</p>
主な内容	<p><開会></p> <p>事務局：定刻となりましたので、第4回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会を開会いたします。</p> <p>委員の皆さまには、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議は公開とし、傍聴ならびにオンラインでの視聴を実施していきます。ご理解、ご協力をお願いいたします。</p> <p>以降の議事進行については、委員長をお願いいたします。</p> <p>次第1 日野市教育委員会教育長挨拶</p> <p>委員長：次第1「日野市教育委員会教育長挨拶」として、教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>教育長：本日は第4回、最後の第4次学校教育基本構想の策定委員会ということで、皆さま、どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>本日は、この第4回の位置付けを確認する意味も含めて、少しプロセスを振り返らせていただきます。</p> <p>第1回は5月に開催し、梅澤委員長、川上副委員長、そして第3次学</p>

校教育基本構想をご一緒いただいた軽井沢風越学園の岩瀬校長それぞれに基調講演をいただきました。この講演がその後の議論のベースになっていると思います。基調講演をいただいた各講師の講演内容の録画は、日野市の先生方全員に共有をさせていただき、各学校でのワークショップの前に見ていただくという形を取らせていただきました。

第2回は7月に開催しました。ここでは、大きな方向性や内容の大枠についてご議論をいただきました。「すべての”いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力」という3次構想の基本理念については、継続をしていく中で、とりわけ子供たちの声から、「いじめがない学校をつくっていききたい」「みんな笑顔でいられる学校をつくっていききたい」という今の学校に関する思いや願いが本当に多く寄せられました。そのようなことを踏まえて、「今」という言葉をこの基本理念の中に加えるというご議論をいただきました。そして、この策定プロセスの中で、14,000 プラスの声、そして50 プラスのワークショップを実施していただきました。その中で、「みんなでつくる、自分たちでつくる構想にしていききたい」という趣旨で、委員の皆さまには、その方向付けをご議論いただきながら、事務局が編集という役割を担い、委員の皆さまと共に進めてまいりました。

3回目、10月に開催いたしました。骨子案についてご議論をいただき、多くのご意見、ご指摘、宿題をいただきました。それらを踏まえ、修正をして、素案としてパブリックコメントをかけました。本日はその結果もご報告をさせていただきます。

本日、第4回目の会議が最終ということで、最終案を机上に配布させていただいております。ここに至るまでに大きな変化が2点ありましたので、そのお話をさせていただきます。

1点目が、表紙を含めたアートとデザインです。これは、日野市出身の画家でおられる蟹江杏さんに絵を書いていただき、蟹江さんのチームにデザインをしていただきました。日野市で育った蟹江さんは、日野市教育委員会評価の委員として事業内容を、3次構想の期間をかけて担ってきていただいています。従って、日野市の教育の良いところも、課題も、ずっと日野市の教育を見てきていただいている教育活動に造詣が深い画家、アーティストです。「言葉では表現できないこ

とをアートでは表現できる」ということで、「すべての”いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」という言葉では抽象的でも、アートの力でそのイメージを共有できるような作品をつくっていただいたと思います。この場を借りて、心から御礼を申し上げたいと思います。

2点目は、構想本体以外の部分についてです。あくまでも、第4次学校教育基本構想はこのA3サイズのものですが、ここにとどまらない部分で、プロジェクトを具体的に動かしていく仕掛け、また、第3回の会議の中でどこを読めば良いのかというご指摘もありましたが、このA3の紙資料では伝えられない部分について、関係者別にリーフレットを作っていくということで、その案を机上に配布しています。結びになりますが、今回、第4回の位置付けについては、日野市の各学校ではこの素案の段階のものを踏まえて、すでに次年度どのようなプロジェクトを取り組んでいきたいかということを考え始めています。本日は、この委員会の最終会、そして集大成として、第4次構想全体に関してのご議論と意思決定をいただくとともに、委員の皆さまの思いを、改めてお話しいただきたいと考えております。本日は、この構想を決めるとともに、本番はこの後の5年間の期間になります。そこに向けての大切な意思決定の場、思いを共有する場として、ご議論をいただきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

委員長：ありがとうございます。もうすでに各学校で動き始めているということで、うれしく思います。まさに、皆さんがご議論いただいているプロセスを公開している価値観だと思いながら拝聴いたしました。

次第2 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶

委員長：次第2「第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶」として、私から一言ご挨拶申し上げます。

本日、行いたいと考えていることは、大きく3つあります。1つ目はパブリックコメントに対する返答案についての審議です。2つ目は、リーフレット、およびそのリーフレットに書ききれなかったものが、QRコードから示されて、細かい内容説明のページに飛ぶようになっていただいております。それらが、そのような形で良いのかどうか

を議論いただきたいと思います。第4次構想本体の議論ということになります。3つ目は、皆さんと、この思いを共有したいということで、各委員から一言ずつのご意見をいただいて、この会をまとめていきたいと考えております。

1年間をかけてきた、この第4次構想の最適解の共同創造の着地点が本日となりますので、ぜひ、皆さまから忌憚のないご意見をいただき、素晴らしいゴールとなりますよう、ご協力賜りますようご協力を願い申し上げます。

次第3 第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取組の経過について

委員長：次第3「第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取組の経過について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：(説明)

委員長：ありがとうございました。

まずは、第3回からパブリックコメントまでの間に修正した内容については、パブリックコメントに付す前に、委員皆様には情報提供しご確認を既にいただいているところです。こちらに関してはよろしいですか。

はい。では次に、パブリックコメントに対する返答を公表しなければいけませんので、このような返答案でよろしいか、お諮りしたいと思います。

私からの確認です。パブリックコメントのご意見に対する回答案の回答者欄ですが、「市教育委員会案」と書いてありますが、「検討委員会及び市教育委員会返答案」でよろしいでしょうか。

事務局：はい。ご指摘のとおり「検討委員会及び市教育委員会回答」として取り扱ってまいります。

委員：01番のところは、基本的にこの内容で良いと思っています。対話・協働と耐久的対話の違いは、みんなの姿が対話・協働であることと、学校の姿が耐久的対話であることです。みんなの姿は、ここに書いてある通り、おとなも子供も全員含めて、大事にしていこうということです。この答えをここに書くことで、これは学校だけのことではなく、皆さんそれぞれが対話協働の役割を担うのだというアピールにもなると思いますので、その部分はしっかりと答えていきたいと思いま

す。

委員長：ありがとうございます。

対話・協働はすべての人に必要だということですね。一方で、深い学びとなると、どうしても学習指導要領で、各教科で教えるべき学習内容が規定されていますので、そこに対する深い理解を子供たちに身に付けさせたいということがあります。それも以前の昭和のような教育で、伝達していく、記憶していくのではなく、それを対話的、協働的に自分の身体の一部にするような探究的な学びにしていこうという期待が感じられるというご意見だったと理解しました。

原則的に、原案の中では構想案は変更しないということですが、実は現行の素案自体がこの後の議論の内容になっておりますので、この後の議論を進めていき、矛盾が生じるようであれば、再度こちらに戻るといって進めたいと思います。

では、パブリックコメントはこのままの形で進めさせていただき、必要に応じて戻るといってことにいたします。

次第4 第4次日野市学校教育基本構想について

委員長：次第4「第4次日野市学校教育基本構想について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：(デザインについての説明)

事務局：(冊子の裏面について説明)

委員長：ありがとうございました。

第3回の会議以降、丁寧にまとめていただいた様子がリーフレットに表れていると感じます。

ご質問をいただきますが、量が多いので、区切りながらご意見いただきたいと思います。

まず、1つ目にご紹介いただいたA3横置き資料の表紙および裏面の中身について、ご意見があればお願いいたします。

アートの力を使っていて、とても素晴らしいと感じました。中面を見ると、表紙にいた登場人物が、当事者として現れており、それも素敵だと思いました。紹介動画の裏面にQRコードを付けるといいますので、ぜひその言葉を入れていただきたいと思います。言葉と画面をア

	<p>ップにして説明する動画が、QRコードから飛ぶようにしていただくと、より一層理解が進むと思います。事務局、前向きなご検討をよろしくお願いいたします。</p> <p>修正をお願いしたい点があります。中面の左下のQRコードが2つ並んでいますが、右側は「進行方策」ではなく、「推進方策」が正しいと思いますので、文言修正をお願いします。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p> <p>委員：質問をいたします。この中面の構想の位置付けのところで、2030との関係性をお示しいただいていますが、これはパブリックコメントを受けてということでしょうか。</p> <p>事務局：2030との関係性については、パブリックコメントもそうですが、私どもがこの構想を打ち立てるときに一番大切にしてきたものは、第4次構想の上位の計画が日野市の中で何だったのかということであり、それを念頭に置きながら、また第3次構想の大切なものを継承し、第4次構想に進んだということです。</p> <p>委員：ありがとうございました。</p> <p>関連して、パブリックコメント意見の中で、「日野市子供条例」という言葉が出てきますが、意見への回答案では大前提ということにとらえているという回答がありましたので、第4次基本構想には、あえて記されていないという理解でよろしかったでしょうか。</p> <p>事務局：はい、その通りです。</p> <p>委員：ありがとうございました。</p> <p>委員長：言葉は入っていないですが、概ねその理念自体は継承されていると思われま。</p> <p>他にご意見等はございませんか。</p> <p>では、先に進みます。</p> <p>各当事者に配布する内容を見ていきたいと思います。「園児向け」、「小学校1年生から3年生向け」等という形で、対象者向けの資料があります。</p> <p>まず、「園児向け」について、ご意見があればお願いいたします。園の関係の委員からご意見がいただけるとありがたいと思います。</p> <p>実は、この部分に関しては、付け加えをしていただいたところがあります。「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくって</p>
--	---

く力」という表現だけでした。資質能力はもちろんすべての人に必要なのですが、「力を育成する」という形になってしまうと、学校教育と感じられます。園ですので、そこ「にむけて」という言葉と、「みんなの力」を「姿」という言葉に修正していただいております。保育指針、幼稚園教育要領に合わせて、「子供たちの姿」という文言に修正しています。

例えば、当事者意識ということで、「あなたはどんな園にしたいですか」という設問だと、何か文を書かせるようなイメージがあるのですが、園の先生方はどのようなイメージをお持ちになりますか。

委員：園児にもいろいろな年齢がありますが、文で答えることは、子供にとって答えにくいと思います。言葉、キーワードのような形で、いくつか枠がある形でも良いと思います。

委員長：ありがとうございました。キーワードを載せて、それに丸をつけてもらうという形ですか。

委員：子供たちから出た言葉を拾うというイメージです。

委員長：子供たちと先生との対話の中で、何かキーワードを上げていくという感じですね。

例えば、横2列を、正方形のような大枠2つにはいかがでしょうか。その中に園児に絵を描いていただくことはできますか。つまり、絵でも字でも書けるような、ユニバーサルデザイン的なものに変えてしまうということです。このサイズでは無理だということであれば、会話の中でキーワードを拾うという方法でも結構だと思います。いかがですか。

委員：特に公立園では、文字の練習やドリル等は一切しておりません。そのような状況の中で、これを子供たちに渡して、「書いてね」と伝えてもそれは難しいことであり、私たちもそれを望んでいません。もし、自分が幼稚園を楽しいと思えば、子供がそこに自分のニコニコの顔を描くというような、自己表現はできると思います。表現は、子供によって違って良いと思います。一人一人と話をしながら、子供の気持ちを受け止めて、そこに書き加えることはできると思いますが、絵に描いて表現することが可能であればとても素敵だと思います。

委員長：ありがとうございました。ユニバーサルデザインとは、何にでも使えるものであり、結構大事な視点だと思います。

事務局、いかがでしょう。これは修正可能ですか。例えば、左側に正方形のような大きな枠をつくり、「どんな園にしたいですか」という形にして、右側は「あなたは園でどのようなことをがんばっていきたいですか」というように聞くということです。皆さま、いかがでしょうか。

ご賛同いただきましたので、そのような形で少し修正をお願いいたします。

他にご意見等はございませんか。

委員：園児向けの質問で、「どのような園にしたいですか」と聞くことは、大変難しい質問だと思います。多分、年長児でも「どういう意味だろう」と考えてしまうと思います。絵を描いてもらうにしても、「保育園で楽しいこと」や「好きなこと」を絵で描いたり、言葉で表現したりするほうが、わかりやすいと思います。または、「何が楽しいですか」という質問の仕方のほうがわかりやすいと思います。小学校1年生でも、「どんな学校」と聞かれても、聞かれている意味がわからないかもしれません。子供たちに聞いても、わからないのではないかと思います。

委員長：では、冒頭の教育長の挨拶にあったように、「今、楽しいこと」を描いてもらい、その楽しいことをみんなで共有するような場面を説明の時に設けていただければどうでしょうか。結果的に、それ以降の楽しい園のイメージが浮かびやすいかもしれません。

文言は園児向けの簡単な言葉にするということで、具体的にどのような言葉にするかは、園長先生方と事務局、委員長の預かりとさせていただきます。

では、「小学校1年生から3年生向け」について、ご意見いただきたいと思います。すでに平仮名を習っている学年です。

委員：園児と同じように、小学1年生にも絵を描かせてみたらおもしろいと思います。同じように、「どんな学校にしたいですか」と聞くのではなく、「学校でどんなことをしてみたいですか」というように聞いてみたいと思います。「こんなことをやってみたい」「あんなことをやってみたい」という意見が出てきて、「では、みんなで、これと、これと、これを実現していこう」というように話し合っ、学期がスタートできたら楽しいクラス、楽しい学校をつくることのできるのではな

いかと思います。

委員長：では、園児用と同じように、絵でも字でも良いように、左側は枠に変えるということですね。「あなたは学校でどんなことをしてみたいですか」という質問も良いと思います。「してみたい」という言葉は、今と未来が組み合わさっている言葉だと思います。

園児向けもそのような言葉が良いかもしれません。「園でどのようなことをしてみたいですか」という質問であれば理解していただけたと思います。

このように、次々、答えがうまれてくると良いと思います。

他にご意見等はございませんか。今のご意見に関連することでも、それ以外でも構いません。

では、「小学校4年生から6年生向け」そして「中学生向け」について、ご意見いただきたいと思います。

委員：「自分だったら、何を書くかな」と思いながら見ていました。私の学校の子供たちを想像して、「あの子たちだったら、何を書くかな」とも思いました。小学校、中学校、高校をつないでいくキャリアパスポートがあります。小学校1年生で書き、2年生で書き、6年生まで続けて書き、中学生の1学期の目安を書き、1学期の終わりには、振り返って何ができたかを書くというものですが、それとすごく似ていると思います。その一部に組み込める可能性を感じました。

これは、毎年積み重ねていくことで、自分の変容が見て取れると思います。これが、学習指導端末で入力できるシステムになると、おもしろいと思います。

委員長：ありがとうございました。

イー・ポートフォリオと言いますが、学習履歴を残していくということが、端末を使うことで、自分の履歴を、紙でなく、データとして残していくことができます。素敵だと思います。

委員ご発言の中に、キャリアパスポートについて、「小学校から中学生、中学生から高校生」という言葉がありましたが、これ見ていくと、高校生のところが少し抜けているように感じます。「小学校4年生から6年生向け」および「中学生向け」の次が、「家庭、地域」になっています。今は成人が18歳以上なので、これで良いのかしれませんが、98%が高校に進学する国であることを考えると、この3枚目に「中学

生、高校生向け」のようなものを入れてみるのはいかがでしょうか。
日野市立の学校となると、小学校や中学校が公立学校として対象になるのですが、日野市教育委員会として、「すべての“いのち”」と言っているのです、高校生を入れることについては、いかがでしょうか。

委員：少ない対象については、日野市教育委員会が行っているのです、中学生向けということで良いと思いますが、日野市以外ではほかにもあります。「中学生等向け」が良いのではないかと、思いました。

委員長：困ったときの「等」という言葉もありますね。

学習指導要領でも、「思考力、判断力、表現力等」というように、当たり前に使われています。「中学生等」という表現にするというご意見ですが、いかがでしょうか。

委員：日野市は日野市として構想を練るということですが、それを受け継いで東京全体として、高校生を受け入れる側としては、それぞれの地域に根付いたものを受け継ぎながら進めていければ良いと、私自身は考えています。

第1回でも申し上げましたが、日野市には、日野台高校、日野高校、南平高校という中堅のトップの学校が3つ揃っています。日野市の中で完結できればよく、それをめざしたいという私の思いもあります。中学生等と高校生までを対象としながら、日野市の中で完結したのを教育委員会の表現とし、将来は日野市に帰り、いろいろな面で日野市を盛り上げていく子供たちに育てば、大変良いと思います。

私自身も地元の出身で、そのようにつなげていきたいと思い、委員会にも参加させていただいています。この「等」を加えながら日野市教育委員会は、日野市の教育に、都立学校も加わっているという位置付けで考えていければ良いと思います。この中にはすべてが入っているという位置付けでよろしいかと思えます

委員長：ありがとうございました。

改めて、「日野市学校教育基本構想」、また、「中学生等」ということ表現をするということで、よろしく願いいたします。

続いて、4枚目「家庭、地域、企業等向け」について、いかがでしょうか。

委員：地域のあり方の部分の白抜きの字が、やや見にくいように思います。もう少しだけ見やすくなる工夫をしていただけると良いと思います。

委員長：こういったものもユニバーサルデザインの対象になると思います。少しコントラストを上げて、白抜きの字を見やすくする工夫をお願いいたします。

事務局：どこまで工夫できるのかわかりませんが、ユニバーサルデザインの観点からも検討したいと思います。

委員長：他にご意見等はございませんか。
では、次に A4 横置き「推進方策指標等」について、ご意見があればお願いいたします。

委員：学校や地域を色分けしていることが、大変良いと思います。皆さんが何をやるのかということ、今回、細かく、地域、家庭を示すということです。まず全体のイメージカラーと学校や家庭という場所があり、その中で、各プロジェクトがあるという形になっているのだと思います。大きいものは、多分主観というイメージですが、私たちが実際に、その過程をお聞きし、意見を交わしながら形づくったので、見ればわかります。ただ、一般の方が、その上の5つのカラーを見て、さらに、各地域、企業、家庭という詳細の一文字だけを見て、結び付けることは、少し難しいので、その部分をご説明をつける必要があると思います。デザイン上、1文字でまとめてあるのだと思いますが、説明することでフォローでき、皆さんにとってわかりやすい資料になると思います。

委員長：ありがとうございました。事務局、いかがでしょうか。

事務局：ご意見、ありがとうございます。どのように見せるのか、事務局内でも大変悩んでいる部分です。関係者は一人ではないということが大前提で、大きさ等もあるということです。

いただいたご意見については、説明等を含め、字も小さくならないように、工夫したいと思います。

委員長：ありがとうございました。

先ほどの説明動画も、言葉と絵が同時に表されるようにすると、だれが見てもわかるものになると思います。ぜひ、説明動画の中でも、色と言葉がどのようにつながっているのかをご紹介いただくと良いと思います。

以前、「情報が多すぎるので、少し整理をする」という話があり、それぞれがQRコードで飛ぶようなつくりになりました。一方で、この

8 プラスのプロジェクトも、飛んだ先の資料です。1枚めくったところに、また、QRコードあるので、さらにもう1台端末が必要になるような感じになりますので、ここは、下部にURLを入れる等の工夫があると良いと思います。ご検討ください。

他にご意見等はございませんか。

委員：2枚目の推進方策でも、QRコードがいくつか載っており、学校のところでは、各学校の学校経営方針等が一覧になっているところに飛び、具体的なものが見えるようになっていますが、地域、家庭、地域等のプロジェクトシートは、どのようなものに飛び、どのようなものが示されるのでしょうか。行政は、「教育委員会年度重点施策」となっていますが、年度ごとのものを取るのでしょうか。この5年間には、どのようなものがあるのでしょうか。

委員長：ありがとうございます。

まず、家庭、地域の方のプロジェクトシートの載せ方についてご説明ください。

事務局：家庭、地域のプロジェクトシートについては初の試みですので、イメージが少ししづらいかと思います。例えば、家庭、地域というカテゴリーでは、各学校が舞台になり、地域の方々が活躍している施策があると思っています。具体的には、各学校で花壇づくりや横断歩道の見守りのようなものがあると思います。そのような小さな活動を、このようなプロジェクトシートの形で表現ができ、1つの場所に集め、それを皆さんで見られるような環境を、デジタルを使って実現できるということが、QRコードの利点として挙げられると思います。

委員長：ありがとうございました。おそらく、学校のイメージも一覧があり、各学校をクリックすると、そこに飛ぶ形になるのだと思います。地域では、右側、日野地域未来ビジョン2030をクリックすると、この日野地域未来ビジョン2030の最初のページに飛び、そこから具体的なものが見られるのだと思います。この左側のプロジェクトシートの最初のページにはどのようなものが入るのか、イメージが湧かなかったのだと思います。おそらく、最初のページをつくって、そこから具体が例示される形にすると良いと思います。

では、行政については、年度ごとなのか、ご説明をお願いいたします。

事務局：行政についても、年度ごとで積み上げていくことを想定しております。

1つの大きな箱の中に下から積み上げていくほうが良いのか、年度ごとにタグを付けた方が良いのかを、現在、検討しております。見やすい形でホームページに掲げていきたいと考えております。

委員長：ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

委員：教育委員会の政策を「5年間でこうしていく」ということが、どこにも載っていません。学校でも注意していき、できることをしていくようなイメージですが、学校の努力以外にも、教育委員会の意気込み、強い意思等が示されると良いと思います。

例えば、国や東京都でも、同じような計画が出ていますが、例えば、運動部活については、国では、「多種多様なスポーツ、安全安心に実現できる環境を構築する」と、力強く書かれています。また、地域、家庭との連携のところに、部活動が記載されており、「部活動、地域連携や地域スポーツ文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備を着実に進める」という文言が入っています。学校でも努力しますが、そのような、力強い教育委員会の言葉が入ると良いと思います。

委員長：ありがとうございました。ご意見として承ります。

他にご意見等はございませんか。

委員：とてもすばらしいものだと思いますので、すべての人と共有ができれば良いと思います。特に、特別支援だと、障がいのある方や、外国にルーツのある方がおられますので、そのような方への配慮について、今後、検討していただければありがたいと思います。

委員長：ありがとうございました。

配慮が必要な方々へのそういうアプローチのしかた等について、現段階で何かあれば教えてください。

事務局：本日お示ししているものの中では、この限られた形のご提示になり、その中でお示ししているものになります。ます。この部分について、受けられるのか受けられないのかは、大きなポイントだと思っております。

いただいたご意見に関しては、4月公開時に、「すべての人々の学び」という観点からも、検討していきたいと考えます。よろしく願いいたします。

委員長：ありがとうございました。

google 翻訳では、現在、いろいろ言葉の翻訳ができます。先ほどの白抜きの言葉も認識して翻訳ができました。このような I C T を使うことで、外国にルーツのある子供に対しては、かなり広範にフォローが可能になると思います。一方、特別支援学校や支援学級の子供に対しては、きめ細やかな支援と配慮が必要だと思えます。ぜひ、すべての“いのち”に対するアプローチの仕方をさらに追求していただけたら良いと思います。

他にご意見があればお願いいたします。

では、先ほどいただきましたご意見を踏まえて、微修正をさせていただきます。その内容については、事務局と委員長に一任ということでよろしいでしょうか。

ご承認をいただき、ありがとうございます。皆様、よろしくお願いいたします。

次に進みます。

次第5 第4次日野市学校教育基本構想の確定に向けた意思決定と検討委員の想いの共有

委員長：次第5「第4次日野市学校教育基本構想の確定に向けた意思決定と検討委員の想いの共有」ということで、委員の皆さまに一言ずつ、基本構想への想いや期待について、発表していただきたいと思えます。

時間の限りがありますので、お一人、1、2分でお願いいたします。

副委員長：本日、拝見して、すばらしいものができつつあると思えます。第3次はアイデアを出し、枠をつくっていくという流れでしたが、第4次は、それをどのように具現化していくのかが肝になるとお話ししましたが、様々なしかけがされており、プロジェクトに向けて、皆さんが動けるような形になってきていると思えます。本当にご苦労様でした。ありがとうございます。

皆さんが資料の内容を見るために、次々、QRコードやURLにアクセスすると思えますが、そのためには、この基本構想のサイトが1つ必要になると思えます。そこに入れる情報はきちんと精査し、コントロールした情報をいれるべきだと思えます。その先のリンクに飛ぶことは結構ですが、「これが基本構想の進捗状況です」「これがフラッグシップになるようなプロジェクトです。それがこう動いています」と

というようなことが必要で、さらにそのウェブサイト運営する人を立て、管理することが大切になると思います。プロのウェブデザイナーに意見を求めて、構築したほうが良いかもしれません。ここから先、もう一步、仕掛けをしていただくと、他にはないような基本構想になると思いますので、ぜひ、その検討をお願いいたします。

参加させていただき、大変勉強になりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

委員 A：いろいろと、ありがとうございました。私は縁があって、第3次の基本構想から関わらせていただきました。初めて、第4次のリーフレットを見たときに「第3次の扉はしっかり開いた」という気持ちになりました。

蟹江さんのアートは、子供たちが今と未来に向かって、手を空に向けて伸ばしているところが描かれており、とても素敵なものができたと思います。

私は日野市民ではありませんので、日野市の子供たちを羨ましく思います。これだけの熱量をもった方たちが、本当に子供を真ん中に置いて考えていただけているということは、子供たちにとって大変幸せなことだと思います。

委員長からも教えていただいた、対話と討論の違いについても、対話とは相手をきちんとリスペクトしており、自分もリスペクトしていることだとわかりました。「対話」という言葉がこのリーフレットの中に、しっかりと書かれていることはありがたく感じ、素敵なことだと思います。ただ、この「対話」という文字が少し薄いと感じます。今後も、対話というものを大事にしながら進めていきたいと思っています。8プラスに関しては、幼児教育の現場では、このプラスの中で、「今、私たちが子供たちのためにできること」を考えているところです。小学校につなぐ幼児教育として何ができるのか、日野市一体となって進めていけるように、今後も努力を続けていきたいと思っています。

参加させていただき、ありがとうございました。

委員 B：私もこの会議に参加させていただいて、本当に感謝しております。いろいろと勉強になりました。

子供たちが様々な力を持っていくためには、やはり自分に自信がないといけないと思います。少し失敗したら嫌になる子供や、自信がない

と言う子供もよく見かけます。根拠のない自信でも、「自分は大丈夫」「失敗しても、またがんばれる」という気持ちももてるためには、やはり愛されている実感が大切だと思います。そのためには、大人の力が必要です。そのようなことを大事にしていける日野市であってほしいと思います。同時に、自分が大事にされていることがわかれば、他者を認めたり、受け止めたりすることができ、認め合えるような関係性が生まれ、共生力につながっていくと思います。そのような子たちが、これから大きくなって、日野市を支え、日野市を推進させていく力になるとうれしいと思います。

このパンフレットは素敵で、手に取って見てみたい、何が書いてあるのだろうと思えるようなものです。日野市の全ての人がこれを手にとって、みんなで考えていけるよう、広く知らせていただければうれしいと思います。ありがとうございました。

委員 C：P T Aに初めて参加させていただきましたので、まさかこのような会にも参加するとは想像しておりませんでした。第1回目の会議では、驚いておりました。会を重ねて、皆さんと議論させていただく中で、「みんなの姿」にもあるように、自分と周りの人を大切にする姿とは、大人にとっても子供にとっても大切だと知り、改めて、自分自身も忘れずに、自分の子供たちにも伝えていきたいと感じました。

日野市でこのようにこれだけ子供たちのことを手厚く考え、このような取り組みをさせていただいていることを、まったく知りませんでした。参加して知ることができ、保護者としても、本当に地元が日野市で良かったと感じています。子供たちが、大人になってからも誇らしく思ってくれて、一度、他所に出ても戻ってきたいと思えるような地元であってほしいと思います。また、日野市で子育てできてよかったと、皆さんに思っただけだと、関わった方々の努力も報われると思います。

情報に関しては、多くの保護者の方が、この素敵な資料を手に取り細かく見ていただけるように、他の保護者にお伝えできれば良いと思っています。

保護者として何ができるか、子育てをするときに何を大事にするべきかを改めて考えさせていただける、貴重な場に参加させていただき、ありがとうございました。今後も微力ながら、学校等を通して関わっ

ていきたいと思いをします。

委員 D: 第3次のときに、大変楽しいことが起こりそうだと思っておりました。今回、この第4次構想に参加させていただくことで、より具体的に理解することができました。うれしかったことは、保護者の日常である子育ても、構想の中に含めていただけたことです。わかりやすい資料を作っていただき、さらにすばらしいアートのデザインまで加えていただき、手に取るとワクワクするような気持ちになります。これが入口なので、今後、着実にこれを推進していけるように努めていきたいと思いをします。ありがとうございました。

委員 E: 委員長、副委員長はじめ、委員の皆さまにおかれましては、貴重なご意見をいただき、まず感謝申し上げます。多くのご意見をいただき、行政だけでは気づかない視点やアイデアをいただいたことで、良い構想ができたと思っております。

また、日野市の学校教育について、本当に多くの方々が、自分のこととして捉えて行動していただいているということ、改めて実感できる機会ともなりました。

第4次構想の教育理念は、第3次構想を土台にして、「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」となりました。

「今」という言葉が加わったことで、この理念がより身近で現実的なものを感じられて、多くの方が当事者として受け止めやすくなったのではないかと思います。

構想はできてからが重要です。構想の裏面には、構想を推進していくためのしくみが書かれています。みんなが当事者となり、より良い学校を作っていければ良いと考えております。これからも、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

委員 F: 本日を含めて、4回の検討委員会、本当にありがとうございました。事務局と一緒に様々なことを検討してきましたが、事務局では、この第4次構想を進めるにあたり、検討委員会以外にも様々な方からご意見いただきました。本当に勉強になりました。中でも、私はワークショップにも参加させていただき議論の過程をみさせていただきましたが、PTAの皆さんが子供たちと学校のことについて、本当に熱心に話し合われていたことが印象に残っています。特に、多忙と言われ、子供たちのために熱心に取り組んでいる先生方を応援していきたい

いという思いがワークショップの委員からたくさん伝わってきました。

第4次構想では、第3次構想の理念を継承しながらも、様々な立場の方が当事者として構想を進めていくことが明確になったことが、大きな特徴だと思います。今回、学校を支える市教育委員会の役割についても、4つのプロジェクトが位置づけられました。子供たちも、学校も前に進んでいけるように、構想を作って終わりではなく、これからも対応しながら、試行錯誤を繰り返し一緒に頑張っていけたら良いと考えております。本日はどうもありがとうございました。

委員 G：「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」ということで、14,000人以上の声と、50回以上のワークショップでの人々の想いや願いが込められた、大変貴重な理念だと思います。私は、この28文字中で、特に次の2点に心を動かされました。1点目は、第3次の事例にはなかった「今」という一文字が加わったことです。「今」という言葉は、実現のための行動、実践に即効性が期待されます。「未来」という言葉だけだと、「明日やろうかな」「来週やろうかな」「いや、来月かな」「2学期でいいや」となりがちです。しかし、「今」という言葉が入ることで、早速、「今から始めよう」となり、即開始となります。また、「今」という現在の一瞬一瞬を大切にするという意味もあると思います。「今」の継続は未来につながり、振り返れば実績がつながり、歴史が見えてきます。さらに、「今、何をするのか」ということに関し、学校をはじめ、学校を支える地域や関係機関でプロジェクトを立ち上げて、当事者として具体的に行動するように仕掛けたことも、素晴らしいことだと思います。学校でのプロジェクトは、子供たちが主体的に参画し、協力しながら、一人一人が力を出してつくり上げ、達成感や自己有用感を満足させるような企画を行ってほしいと願っています。

2点目は「すべての“いのち”」の「すべて」に、大きな意義と責任を感じます。すべてとは、「全部、みんな出す」ということであり、「だれ一人取り残さない」ということであって、「総じて」ということではありません。特に学校に行き渋る子供に必要な、自尊感情や学校への所属意識を育て、「自分もやってみたい」「みんなと一緒に笑ったり喜んだりしたい」と思えるようなプロジェクト、学校が楽しいところ、

友達と一緒に成長できる場所だと感じられるようなプロジェクトになってほしいと思います。だれ一人も例外としない、除外しない、多様な学びや学び方で、子供たちのやる気がみなぎった笑顔いっぱいの学校にすることで、居心地の良い、所属意識が持てる、まさにウェルビーイングの状態の学校にすることで、第4次基本構想の理念に結び付くのではないのかと思います。

私は、自分の仕事を通して、どのようにすれば学校を支えられるか、真剣に考えて実践していきたいと思っております。第4次基本構想の検討委員会に加えていただいて、本当にうれしく思います。ありがとうございました。

委員 H：子ども条例の理念を具現化する大きな土台が、1つできた受け止めております。良いまちになるための種が、また1つ植えられたのだと思います。その種から花を咲かせ、実をつけさせるためには、これからどのようにして多くの人と共有していけるのかということに関わっていると思います。私の立場でも、このことにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

また、蟹江さんの絵が非常に良いと思いました。5月に、子ども子育ての総合支援拠点として、新しい「みらいく」が、本庁舎の隣にできますが、そこにも、蟹江さんが大勢の子供たちと一緒に描いた絵が飾られます。そのようなストーリーの連続性を感じることができて、うれしく思います。

この会議に参加させていただき、ありがとうございました。

委員 I：小学校の学校運営協議会委員として参加させていただきました。滝合小学校がコミュニティスクールになって、ちょうど1年経ちました。コミュニティスクールは、みんなが当事者ということが当てはまると思っています。学校の運営に関わる、学校の中に入っていき、地域の者として学校にいろいろなことで顔を出す保護者が、この1年で本当に増えたと実感しています。日野市が進めているコミュニティスクール化も、この第4次基本構造を基にたくさんのヒントが散りばめられていますので、これを見ながら、コミュニティスクールがうまく進んでいくのではないかと感じています。

この会議に参加させていただいて、ありがとうございました。

委員 J：私は特別支援学校の校長という立場からお話をしようと思います。こ

れまで、特別支援教育は、「一人一人に応じた自立と社会参加」を合言葉に進めてきましたが、今後は「一人一人が自立したリーダーとして社会に貢献する人材の育成」ということに、舵を切っていく必要があると考えるようになりました。

国が特別支援教育の推進を掲げたのが、平成 19 年でしたので、それから 17 年が経ち、今、学校教育は本当に様変わりしました。地域においても、スロープやエレベーターができ、交通機関をはじめ、まちの至るところにユニバーサルデザインが施されるようになりました。障がいのある方が住みやすい時代になったと思います。まだまだの部分もありますが、様々な法令も整備され、障がいのある方の雇用確保も随分進みました。ご自身の特性を生かして、その道のエキスパートとして活躍できる時代にもなり、本当に、生活が一変したと思います。このような歩みを振り返って、これからは、一人一人が自立したリーダーとして、社会に貢献する人材の育成を進めていく必要があると、私自身も考えています。このことは、日野市を支えていく人材を育成することに繋がり、学校教育基本構想に合致することだと思います。

この会議、このプロジェクトに参画させていただき、大変勉強になりました。大谷選手の「今日だけは、懂れるのはやめましょう」という言葉は有名になりましたが、日野市の学校構想が、他の自治体から懂られるようになってほしいという思いを、最後にお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

委員 K：この会議に参加させていただき、本当に勉強になりました。日野市のこのような取り組みは、素晴らしいことだと思います。

日野市の中にある高校として、日野市の中学生にたくさん来てほしいと思っています。そのような思いで、「日野市で教育を完結しましょう」ということを、再三にわたって申し上げます。将来的に、日野市で育った子供が、日野市に戻り、日野市を盛り上げていただけるとありがたいと思います。若い力が育っていけば、この地域が活性化します。

また、高校も地域と連携をしていろいろなことに関わらせていただけたら良いと考えています。ぜひ、保育園、幼稚園、小学校、中学校が協力して、子供たちを育てる活動に取り組んでいけると良いと思いま

す。

このリーフレットは大変わかりやすいと思います。教育は難しくてはいけません。素晴らしいものができたと思いますが、これが紙面だけで終わらずに、これからの5年間、すべてが実践として行われていくような方向に関わっていきたいと思います。ありがとうございました。今後もがんばっていきたいと思います。

委員 L：小学校の校長会から本委員会に参加しました。2つの願いを持ってこの会議に参加しました。1つ目が、この構想が、学校が目の前の子供たちと一番やりたいことに取り組めるように、後押しをしていただけるような構想になってほしいということです。2つ目は「保護者や地域の皆さんが、ご自身の役割等を自覚して、学校の応援団になっていただけるような構想になっていただけるとありがたいということです。私のこの願いは、このリーフレットを見ると、十分叶えていただけたという思いであります。

今、小学校の校長会でも、開催する度に、進捗状況が話題になります。お互いに情報交換をして、教育委員会から情報をもらい、それぞれの校長が、令和6年度にどのようなプロジェクトを行うのか、教員たちと議論をしています。4月から、そのプロジェクトが各学校で一気に始まります。私たち校長は、中身の理念と具体的な取り組みを子供たちの姿として具現化していく責任が求められると、改めて感じています。

この会に参加させていただくと、毎回、元気をいただいて帰っておいりました。ありがとうございました。

委員 M：もともと第3次の日野市の学校教育基本構想はとても温かいものだと感じていました。具体的には、多くの構想では、「学力向上」があり、「この学校は学力が低いからこうしなさい」というようなプレッシャーをかけている構想も結構多いと思います。ところが日野市の構想は、そのようなことはなく、今回も、子供を中心に添えて、自分たちで主体的に考えていくという形になっています。

この絵も、とても温かく、素晴らしいと思います。皆さんの気持ちやねらいが、一目見てわかります。

学校でも応援していただけるような形になっており、逆に、理想の姿を実現しなければいけないということで、ますます私どももがんばっ

ていく必要があると、強く思いました。暴走したり、うまくいかなかったりしたときには、ご指導、ご支援をいただきながら、進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：委員皆さま、ありがとうございました。皆さまのコメントの中に、この委員になっての誇りや達成感のようなものが感じられて、とても素敵だと思いながら、お話を聞いていました。この誇りや達成感は、第3次基本構想のときも感じていました。ただ、その達成感が、今一つ、学校現場に浸透しなかったという反省を踏まえて、第4次の検討委員会をスタートすることとなりました。第4次基本構想検討委員会については、この会議体の回数は少なくし、一方で、各現場からの意見を吸い上げる機会を多分に作っていただいたと認識しております。それによって、14,000人以上の声が吸い上げられたのだと思います。その具体として、50回以上のワークショップが開催されました。すでにこの段階で、第3次基本構想のとき比べて、当事者意識は広く周知され始めていると思います。すでに各学校長の間でも、そのことが話題になっているということで、助走の付け方が違うと感じております。

皆さまのご意見の中にたくさん上がってきた、「今」という言葉は、決定的なものだと思います。古い学校教育では、とても先の未来の目標や夢ばかり語らせていました。そのようなところに向かっては、脳内モルヒネやドーパミンは出にくいことがわかっています。毎日の達成感を感じにくいからです。やはり、「今」、この瞬間の達成感を大事にしていくべきだと思っています。そのことは、先生方の働き方言えば、ワークエンゲージメント、いわゆる「働きがいはどうつくるか」ということです。そして、子供たちの学びで言うと、ラーニングエンゲージメント、「没頭、夢中になってしまって時間を忘れてしまうような深い学び」です。そのようなものを、学校教育の中でどのように具現化していくのが、おそらく未来の子供たちのウェルビーイングにつながるだろうと思いながら、皆さまのご意見を聞いていました。私どものこの委員会の回数が少なくなった分、事務局は大変だったことだと思います。敬意を表したいと思います。

そして、事務局の力だけでなく、アーティストの力を使ったことも、違った形の着地になったと思っています。

今は、ソサエティ 5.0、創造社会に向かっていきます。ソサエティ 4.0 は情報社会でした。国際的にはSTEM教育というものが推進されていました。サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング・マスマティクスです。ザ理系の科目です。今、創造社会に向けて、「STEAM」と言われますが、途中に「A」が入っています。いみじくもアートなのです。創造社会故に、答えが決まっているものを効率的にやるだけではなく、そこに創造性を踏まえた教育が求められている時代になっています。学校教育にかかわる基本理念にアーティスティックな部分が入ってきたこと、そして、そこに考えさせる余地がたくさんあったことで、本当に良い表現になったと思います。加えて、このプロジェクトを8で限定しなかったこと、余地の部分に、学校がこれから想像しつつ、子供たちが未来に向けて培っていくべき資質能力を育成する何か埋め込まれているのだと思っています。以前、リーダーは「トップダウンができる力」でしたが、今は「サーバント・リーダーシップ」と言われて、当事者がいかに前向きに取り組めるようにフォローしていくか、また、そのフォロワーシップが大事な時代になってきました。皆さまのコメントにあった通り、これを誇りに思った皆さまがフォロワーとなり、基本理念を広く、深く周知していただけることを願って、私の言葉にさせていただきます。

この委員会に参加させていただいて、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

皆さま、多くのご意見をありがとうございました。

それでは、第4次日野市学校教育基本構想は、この内容でよろしいかという確認をさせていただきたいと思います。微修正については、事務局と委員長に一任していただくということで、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では、先に進みます。

次第6 今後の流れ

委員長：次第6「今後の流れ」について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：本日も多くのご意見いただきまして、ありがとうございます。第4回

の会議体を受け、いただいたご意見を、委員長のご発言の通りに、委員長預かりという形でご相談させていただきながら精査してまいります。精査の内容につきましても、皆さまにも情報共有させていただきながら、この構想の流れとしては、意見集約後に、委員長判断を仰ぎながら、3月の中下旬に向かって突き進んでいきたいと思っています。この中下旬という時期は、この教育委員会の報告の1つの部分になってまいります。教育委員会に報告をすることによって、第4次構想がいよいよ日野市の中でも立ち上がっていく段階になります。その流れを、事前に皆さまにも情報共有しながら進めてまいります。

2点目の連絡は、この第4次日野市学校教育基本構想検討委員会の任期です。先ほど、3月23日の教育委員会の報告ということでしたが、この委員会の規則の中に、報告をもって解散とありますので、3月23日の教育委員会の報告および承認をもって、この会は一旦、解散するとご報告申し上げます。

3点目は、事務連絡です。本日もハイブリッド会議の進行でしたが、この後、オンラインの皆さまの方にご意見いただく場合には、チャットで、その部分のアンケートをお送りします。ご意見があればお寄せください。

委員長：ありがとうございました。ご質問等があればお願いいたします。
では、先に進みます。

次第7 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会副委員長ご挨拶

副委員長：教育長、委員長、事務局の皆様、委員の皆様、本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

このように、大人が情熱を持って、教育のことを考えることは大変重要なことだと思います。ただ、私たちは何かを子供に与えることはできるかもしれませんが、子供に対し、「こう行きなさい」「こうやりなさい」「こう育ちなさい」とは言えないと思います。子供たちは、この後、私たちがまったく知らない未来を生きていくわけです。ですから、こういうすばらしい基本構想をつくって、達成感、高揚感をもちますが、最終的には、これを子供たちに感じてもらえるか、トランスファーしていけるかが重要だと思います。そこが本当の構想の実現の意味だと思います。構想の実現や効果は何で測るのかと聞かれれば、

	<p>子供たちが自分のオーナーシップで、自分たちの未来を決めていけるように育った、またはそう感じたということが、実現したということだと思います。日野市の子供たちが、そのようになることを、皆さまと一緒に見守りたいと思います。</p> <p>本当に、ご苦労様でした。ありがとうございました。</p> <p>委員長：ありがとうございました。</p> <p><閉会></p> <p>委員長：以上で、第4回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会を閉会いたします。</p> <p>皆さまの任期ももう少しで終わりますが、ぜひ、このすばらしい基本構想を、各現場でお伝えいただけますようお願い申し上げます。皆さまのますますのご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。</p>
<p>作成者</p>	<p>教育指導課 小松</p>